

〔科目名〕 現代企業論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基礎科目	
〔担当者〕 矢口 義教			〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本授業では、現代企業について、根本的な性質、企業形態、コーポレート・ガバナンス(企業統治)、企業の社会的責任(CSR)などの側面から企業と社会の関係を学ぶ。また、この学修を通して、受講生は企業それ自体の理解に加えて、企業が存在することの意義を理解する。そして、将来的に社会人・職業人として働くことの意味を理解し、必要な職業観や職業倫理も修得してもらいたい。 第 1 に企業数、GDP、雇用人数などから企業の役割に言及したうえで、株式会社を中心とする企業形態について学ぶ。これを踏まえて企業統治を説明する。企業が適切に指揮・統制されることで、健全な経営を導くものであり、日米の背景を学び進展する改革にも触れる。第 2 に企業が果たす CSR の議論を進めていく。CSR ピラミッドという枠組みを確認し、大企業における CSR の制度化を解説したのちに、ESG や SDGs など近年の国際的な潮流も確認する。また相次ぐ企業不祥事について、その発生原理と解決のための制度的施策も検討する。 最後に中小企業の CSR に果たす経営理念の役割を検討する。中小企業の CSR は、経営者の価値観に基づく暗黙的 CSR であり、世代間で持続性を担保するために社会的に責任あるリーダーシップを承継する必要がある。CSR 実践の根底には経営理念の存在がしており、組織への浸透が経営者の役割になることも学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経営学は、大別すると、経営管理論と企業論に分けられる。前者は企業の競争力や営利性に関係するのに対して、後者は社会性に焦点を当てており、現代企業論を中心に環境経営論や経営倫理学などが該当する。企業について、営利と社会の双方から見る必要があり、現代企業論はこの基礎的な科目となっている。また企業形態やガバナンスなどの根本的な性質も論じるが、これは会計やファイナンスに関する授業科目群の理解促進にも必要な知識や視点を提供することになる。 現代企業論を学ぶ意義は、社会的存在としての企業を認識できるようになることである。CSR の担い手は、将来的に社会人として働く学生であり、現代企業論では職業観も養うことになる。社会人として、長期間活躍するためには職場内外を通して「信頼」関係を構築する必要がある。それは、正直・誠実さ、責任、倫理など職業実践を通して得られるものである。この授業を通して、CSR や倫理だけでなく、職業の社会性・倫理性を身につけることで、職業人として長期間にわたって活躍する基礎をつくることができる。							
〔科目の到達目標〕 (1) 企業と社会について、ステークホルダーとの関係の観点から正しい理解をすることができる。 (2) 職業の社会性・倫理性の認識を通して、「正しく」働くことの意味を理解することができる。 (3) 現代企業のガバナンスや社会的に責任に関して、自らの意見や疑問を述べることができるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 今回より初めて授業を担当するので、まだ授業評価を受けていません。今後の授業評価を踏まえて、コメント、改善と工夫の観点から対応をするようにします。							

〔教科書〕 使用しない	
〔指定図書〕 矢口義教(2023)『地域を支え、地域を守る責任経営—CSR・SDGs 時代の中小企業経営と事業承継—』創成社 (ISBN:978-4-7944-2612-3)	
〔参考書〕 佐久間信夫・井上善博・矢口義教編著(2024)『入門企業論』法律文化社 (ISBN:978-4-589-04297-2)	
〔前提科目〕 企業論の領域に該当する環境経営論、経営倫理学、地域企業論Ⅰ・Ⅱを履修することが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価については、①毎回の授業後に実施する理解確認小テスト(最大 30 点:2 点×15 回)、②中間で課す課題レポート(最大 20 点)、③期末テスト(最大 50 点)、さらには④受講態度も含めて総合的に判断する。 ①は記述式で行うが、その評価基準は、授業の内容をおおよそ理解できているかどうかで判断する。 ②の評価基準は、構成(序⇒本論⇒結論)の適切性(5 点)、考察・分析の視点(5 点)、結論における意見の鋭さ(5 点)、文章表現(5 点)に基づいている。 ③は、前半部分の穴埋め式(25 点)、後半部分の論述(25 点)で評価する。前半部分では、25 問分の穴埋めを各 1 点とするが、授業のなかでも重要なキーワードを出題するので、正確に解答することが望まれる。後半部分では、論述テーマについて、背景と特徴の正確な認識に基づく記述(10 点)、結論部分における自身の意見や考え(10 点)、文章量(5 点)に基づいて評価する。 ④について、授業中の私語、内職、居眠りなどが改善しない場合には欠席扱いにすることもある。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 私は、授業に対して情熱をもち誠実に取り組んでいく。また、私の授業に向き合う姿勢は「誰一人取り残さない」ことを心がけており、全員が現代企業論に関する知識と単位を修得することで、皆さんの成長につながる手伝いをしたい。何らかの個人的な事情を抱える人も多いと思うので、臆さずに相談してほしい。皆さんと相談しながら、解決に取り組みたい。大学の授業は皆さんの成長につながり、成長は皆さんの幸福につながるものである。授業については、すべてが「自分のため」と認識し積極的に取り組んでいただけることを切に願っている。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における企業の性質と役割 内 容: 企業規模、企業数、雇用者数など、資本主義社会における企業の実態を明らかにする。 教科書・指定図書: 指定図書 p.8～p.11 に関連
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 企業形態(1) 株式会社 内 容: 定義、株式と株主、証券市場との関係、会社機関、財務諸表などから特徴に迫っていく。 教科書・指定図書: 該当なし
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 企業形態(2) 合名会社、合資会社、合同会社、相互会社など 内 容: 株式会社以外の企業形態についても学び、正確にその特徴についての理解を深める。 教科書・指定図書: 該当なし
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 企業と社会関係: ステークホルダーの概念 内 容: 企業は、様々な社会関係のなかで活動をしている。そのような関係主体であるステークホルダーの概念や種類を整理し、企業がその活動によって影響を及ぼす範囲を理解していく。 教科書・指定図書: 指定図書 p.12～p.15 に関連

第 5 回	テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンス(1) アメリカにおける歴史的背景 内 容:定義と概念を踏まえたうえで、経営者支配などアメリカにおける歴史的背景を理解する。 教科書・指定図書:該当なし
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンス(2) 日本における歴史的背景 内 容:財閥解体、株式持合、バブル崩壊、企業不祥事などの側面から、日本におけるコーポレート・ガバナンスの背景を整理することで、近年のガバナンス改革を理解するための前提をつくる。 教科書・指定図書:該当なし
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンス(3) 近年のガバナンス改革の特徴 内 容:収益性改善や株式所有の観点から日本で進むガバナンス改革について学ぶ。 教科書・指定図書:該当なし
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):現代企業に求められる企業の社会的責任(CSR) 内 容:「CSR ピラミッド」に基づいて、経済、法律、倫理、社会貢献の 4 つの社会的責任の観点から理解する。また、それぞれが有する意味を正確に理解してCSRの基本を押さえる。 教科書・指定図書:指定図書 p.9～p.21 に関連
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):大企業におけるCSRの制度化 内 容:行動規範の策定、CSR担当取締役、取締役直轄のCSR委員会、CSR専任部署、CSR教育・訓練、情報開示など、大企業における組織的なCSRの推進体制について学ぶ。 教科書・指定図書:指定図書 p.20～p.24 に関連
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):同調圧力や組織人格化に基づく企業の不祥事 内 容:企業不祥事について、近年の動向を整理して、その発生要因やメカニズムを理解する。 教科書・指定図書:指定図書 p.16～p.19、p.213～p.237 に関連
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):ESG や SDGs などから見る近年の CSR をめぐる新潮流 内 容:近年の CSR に影響を及ぼす新しい取り組みであるESG(環境・社会・ガバナンス)とSDGs(持続可能な開発目標)を検討して、サステナビリティ(持続可能性)に関する理解を深めていく。 教科書・指定図書:指定図書 p.24～p.36 に関連
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):中小・地域企業の CSR(1) 事業関連性の高い活動 内 容:中小・地域企業のCSR実践について理解する。経営者の価値観とリーダーシップに基づく事業関連性の高い暗黙的CSRを認識して、あらゆる企業でCSRが実践可能なことを示す。 教科書・指定図書:指定図書 p.86～p.93 に関連
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):中小・地域企業の CSR(2) 中小企業の持続的 CSR 実践の枠組み 内 容:経営者の属人性に依存する中小企業において、そのCSRの世代を超えた持続的実践について事業承継の観点から解き明かす。 教科書・指定図書:指定図書 p.100～p.107 に関連
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):経営理念と企業の社会的責任(1) 経営理念とは 内 容:企業の目的である経営理念について検討する。まず、経営理念、戦略、組織文化、ガバナンスなどとの関連性を理解したうえで、経営理念が全体的に浸透することの必要性を示す。 教科書・指定図書:指定図書の第 4 章～第 6 章の内容に全体的に関連
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):経営理念と企業の社会的責任(2) 経営理念形成に基づく CSR 実践 内 容:経営理念がCSRの実践に結び付くプロセスを、企業事例に基づいて理解する。 教科書・指定図書:該当なし
試 験	筆記試験の実施。授業配布資料持ち込み可(ただし自筆プリントのみ)。

